

「新しい薬」

（社長室）ノック音「トントン。」

社長「どうぞ。」

開発部員「失礼します。」

社長「ああ、南雲くん。新薬の開発の方はどうだね。」

開発部員「はい。社長に言われた通り、開発を進めています。」

社長「うんうん。」

開発部員「ライバル会社が薬の成分に『やさしさ』を加えたところ新しい薬ができたことを受けて、弊社でも、薬の成分に新しいものを加えようと努力しました。」

社長「それで？」

開発部員「まずは、新薬の成分として、『くやしさを混ぜてみる』ことにしました。」

社長「『くやしさ』か。」

開発部員「高校生の部活動の大会で準優勝の選手から『くやしさを抽出し、薬に混ぜてみました。』

社長「それで？結果は？」

開発部員「風邪のウィルスに薬の粉末を混ぜてみたところ、ウィルスが『くやしさに反応して、増殖しました。』

社長「ダメじゃん。」

開発部員「なにくそ、の精神です。」

社長「他には？」

開発部員「続いて、『はかなさ』を混ぜてみました。これは、今年散った桜の花びらから抽出しました。」

社長「それで？」

開発部員「ウィルスに薬の粉末を混ぜてみたところ、薬の粉末の方が一瞬で消えてしまいました。」

社長「だから、ダメじゃん。」

開発部員「はかなかったです。」

社長「次は？」

開発部員「続いて、『しんどさ』を入れてみました。これは富士山の登山客から

『しんどさ』を抽出しました。」

社長「なるほど。」

開発部員「ウィルスに粉末を混ぜてみたところ、ウィルスが『しんどさ』に反応し、消滅しました。」

社長「おー！いいじゃないか……！」

開発部員「ただ、マウスで実験したところ、副作用で汗が止まらなくなりました……」

社長「うん。ダメじゃん。」

開発部員「まあ、しんどいですからね。」

社長「『しんどさ』の副作用か。これは盲点だったな。」

開発部員「ただ、しんどさが風邪に効くことはわかったので、しんどさの副作用を

打ち消す成分がわかれば、新薬を開発できるとわかりました。」

社長「なるほど。」

開発部員「まず、『楽しさ』ですが…」

社長「おお、『楽しさ』か。」

開発部員「こちら、汗の分泌を止める作用はあったのですが、入手が困難でして…」

社長「なぜだね？テーマパークの客とかから抽出できるんじゃないのか？」

開発部員「テーマパーク側から苦情が来まして…『お客様から楽しさを奪うとは何事だ！』と…」

社長「ああ、そうか。」

開発部員「そこで、『眠たさ』を混ぜてみました。」

社長「どうなった？」

開発部員「『しんどさ』と『眠たさ』がいい具合に作用して、よく眠れました。」

社長「ダメじゃん。」

開発部員「ただ、図らずも睡眠薬が開発できたので、ここで報告しておきます。」

社長「わかった。あとで、報告書を読んでおく。」

開発部員「で、この眠たさを打破するために、『後ろめたさ』を混ぜてみました。」

社長「するど？」

開発部員「気になって眠れなくなりました。ただ、夜になっても眠れない状態になりました…」

社長「うん。だから、ダメじゃん。」

開発部員「図らずも眠気覚ましドリンクが開発できたので、ここで報告しておきます。」

社長「うん。これも、あとで報告書を読んでおく。」

開発部員「このあともいろいろ試行錯誤を繰り返しまして…」

社長「結局、新薬は開発できたのかね？」

開発部員「はい。様々な感情を絶妙な配分で混ぜ合わせたところ、風邪に効き、

副作用もない新薬が開発できました！」

社長「ほう…」

2か月後、新薬は発売され、テレビでCMも流された。

テレビ(開発部員)

「アタフタ製薬の新製品は…」

『くやしな』と『はかなな』と『しんどな』と！

『眠たさ』と『後ろめたさ』と『いざぎよな』と！

『怪しな』と『おとなしな』と『かしこな』と！

『香ばしな』と『寂しな』と『むなしな』と！

『いとしな』と『せつなさ』と『心強さ』を！

絶妙な配分でブレンドした風邪薬です…」